

セ タガヤ ボ ランティア ネ ットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2021.11 No.211

Setagaya Volunteer Association
世田谷ボランティア協会 40 周年

今月のトピック

特集●

GIGA スクール構想とは

～コロナ禍で学校はどう変わるのでしょうか？～

まちの市民力！ ●極楽フェス 2021

キラリ世田谷人！ ●中川 清史さん



イラストレーション ● 湯山 猛洋

1959 年東京生まれ。光明養護学校卒業後、数々の画家に師事。下馬福祉工房での仕事の傍ら、日々デッサンやイラストを生み出し続ける、心優しいアーティスト。

●わたしの世田谷

花が好きで、2 月頃に咲く羽根木公園の梅の花を見るのが楽しみです。黄色、紅白と種類があり、たくさん咲いているので見ごたえがあります。

GIGA スクール構想とは？

コロナ禍で学校はどう変わるのでしょうか？

最近、新聞などでもよく見かける「GIGA スクール」とは何なのでしょう？ コロナ禍はこれまでの社会のあらゆる場面に変化を余儀なくさせていますが、教育の場面にも新しい変化の波が押し寄せています。どんな変化なのか。波に押し流されないように立ち止まって、「GIGA とは？」と問い、意見を出し合い、これからの教育の方向を、さまざまな立場から考えていく場を広げていきたいと思ひます。



コロナ禍がGIGAの背中を押した

区内で、子どもや学校、教育に関するさまざまな問題、課題を25年間にわたって取りあげる機会をもってきた「世田谷こどもいのちのネットワーク」が主催して、今年の4月、7月と「GIGA スクール構想」について学ぼうオンラインでの会を持ちました。講師を務めてくださった、区立八幡小学校と墨田区立八広小学校で非常勤の教員を務められている坂井岳志先生と「世田谷公教育におけるICT活用を考える会」の代表である吉澤卓さんのお話から、「GIGA」を少しひも解いていきたいと思います。

「GIGA スクール」とは、Global Innovation Gateway for All（すべての子どもたちに、グローバルで革新的な扉を）の頭文字をとったもので、コンピュータの容量を示すGIGAにも通じま

す。

具体的には、「1人1台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちが誰一人取り残されることなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育」を公式の見解としています。世界の他の国々に比べて、日本の教育現場でのICT（情報通信技術）化は遅れているという危機感を経済界が持ったという背景があります。

2019年12月に文科省が打ち出した、どの子どもたちにも「個別最適化」の教育を実現しようという構想は、「これまでの教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることで、教師や児童生徒の力を最大限に引き出すことを目的とする」とされています。

当初は2023年を目標としていた一人一台の端末配備が、思いもかけなかったコロナ禍によって

前倒しされることになり、GIGAスクール構想が、一気に早まりました。

折しも2020年3月に突然全国一斉の休校措置が取られ、学校が明治の時代からさほど変わっていないことがこの事態で明らかにされました。

例えば、デジタル化が進む社会の中で、学校の電話回線はたったの二本でした。本来なら卒業式や始業式があるこの時期に保護者は連絡も取れず、子どもと先生はほぼ音信不通状態におかれました。「こんな時こそICTを活用する



1980年代から学校現場にICT導入を提案している坂井岳志さん

ばいいのでは？」と考えた、吉澤さんは、区内の親たちにアンケートを取り、集まった1521通の結果を区長、教育長に渡しました。ほぼ100%がICTの活用に賛成していました。

ICTを授業に活用する

坂井先生は、40年も前からICTの導入を提案してきました。しかし「現在の世田谷の学校には先生のメールアドレスが一つしかないので個別の連絡ができません。セキュリティを守るため、フィードバックが子どもたちの検索作業を妨げます。安全なものでも一律に網掛けをされると、フィードバックがかかってしまい、例えば戦争という言葉が出てくるサイトはブロックされた時期もありました」と言います。

日本の授業は一斉学習が中心で、教師が壇上から一方的に話をし、黒板に書くことを生徒がノー

トに写す、というパターンが一般的でした。通学が前提だった学校が休みになると、学びの機会は閉ざされてしまい、子どもの「教育を受ける権利」は奪われます。コロナ禍は子どもたちの学びの場を奪ってしまったのです。そういう時に、GIGA端末とネットワークを使うことで学校と子どもたちや保護者をつなぐ手段がある程度確保することができました。

また、坂井先生は「お互いをつなぐ事のできるアプリを使うことで、子どもたちの学びの過程や作業内容を見ることが出来ます。教員の端末の画面を提示しておき、課題や問題を共有することができ、同じ内容の学習でも、子どもの理解度に応じた問題を出せます。文字は書けなくても、端末で文章を打てる子もいました。また、発表することが苦手だった子どもも、自分の考えを友だちに伝えることが出来ました」とその変化を語っていました。

2016年には「教育機会確保法」が制定されました。学校以外のところにも学びの場があることを国が認めたものです。この法律が、世田谷区の希望丘中学の跡地にフリースクールを設置するなどの動きにつながりました。さまざまな理由で学校に來れない子どもたちが、端末を使うことによって学校の外から授業に参加できるというのも、教育機会確保につながります。



「世田谷公教育におけるICT利活用を考える会」
代表 吉澤卓さん

公教育が変わるために

吉澤さんは、ICTの利活用を親の立場から提案した理由をこのように言います。

「教育における個別最適化を教育の目的とするなら、そのためのツールがデジタルです。学校の枠を超えるので、学校に來なくてはいけないということがなくなる。どんな子どもにも教育が保証されるということになるのではないかと。タブレットは先生が教える道具ではなく、子どもが学びの道具になるための文房具です。教師も、指導者ではなく支援者、一人ひとりに寄り添うサポーターになっていってほしい。『学校に行くこと』が教育を受ける」という既成概念は変わっていくでしょう」

現在、さまざまな学びの場が作られるようになっていきます。「オランダのイエナプランを取り入れた、長野県佐久穂町の大日向小学校、チャータースクールなど、現

場も面白くなっていますが、僕は地域の学校が変わっていくのがいいと思っています。地域の公教育の現場を変えていくためには、教育委員会、学校、教員、保護者、地域によるフィードバックループづくりが急務です。地域との連携も、デジタルなプラットフォームがあれば力を発揮します。その連携は防災などにも活かせるでしょう」と吉澤さんは地域からの発信に学校以外のつながりを期待しています。

課題は山積み 丁寧な対応を

コロナ禍によって、図らずも耳慣れなかったICTやGIGAなどの言葉が現実味を帯びたものになっています。まだまだ発展途上、流動的なものですから、課題をきちんと整理しながら、これでもいいのかと問いかけながら進んでいかなくてはならないでしょう。

坂井先生はこれからの課題につ

いて「課題解決学習、探求型の学習は時間がかかり、子ども自身の意欲・関心によってサポートが必要になる場合が多いのですが、大事なものは、子どもが決めること。そして今まで体験したことのない教員が授業方法を変えるのは難しいし、保護者や地域も旧来のパターンのままだと、子どもたちの意見をきかずに、生活指導の対象として使うと規制することにもなってしまう。まず、市民を育てるといふ観点が必要です」と言います。

子どもも小さな一人の市民です。オンラインで学校と家がつながって授業をしている時は、子どもにとつての学びの場だということとを、親もしっかりと理解して余計な介入はしないなど、民主主義、人権意識をどう守っていくか、という「シチズンシップ教育」が誰にも問われます。

水平な関係で、新しい学びの形を

「先生がすべてをやるといふ時代は終わりました。私も子どもに教わりながらやっています。ともに学ぶという姿勢がないとこれからの先生はやっていけません」と坂井さん。すべてを引き受けてきた先生、そこに新しい学びの形が入ってくると、現場は混乱します。先生をサポートする常駐のICTの支援員がいることは絶対に必要で、地域の人たちがかかわることも可能でしょう。

オンラインはなじまない、という授業ももちろんあります。世田谷ボランティアセンターを会場にで月に一度行われている「日曜科学クラブ」。子どもたちが予想を立て、実際にどうなるのかを実験して確かめる、という「仮説実験授業」を長い間実践されてきた平林浩先生は「知識を得るだけではない、雰囲気、感情、表現を含めて伝えることの大切さを学び合う

のです。みんなの顔の表情を見て、言いたいことを言うのが討論の場です。目の前に実際に「熱」があり、それが燃えている、熱さを感じる。こどもたちの見つめる目と「ものの」関係が感動を生みます」。まさに、お芝居さながらの「ライブ」の世界。なんでもオンライン、という世の中でこういう大切な世界もますます大事にしていきたいと思うのです。

(文責／編集委員 星野 弥生)



体験も、大切なのは、オンラインならではの体験も、これからは大事です。写真：日曜科学クラブ

赤ちゃんから120歳まで
みんなの下馬地区アートプロジェクト
極楽フェス2021



まちの 市民力!!

取材・大垣内 弘美

街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



写真提供：後藤 究

極楽フェスは、世田谷パブリックシアターとNPO法人演劇百貨店が主催となり、地域全体が繋がり、コロナ禍の今も互いに支えあえる社会を作りたいとの願いを込めて開催。世田谷ボランティア協会からは、ケアセンターふらっと、ぽーとせたがや、世田谷ボランティアセンターが準備段階から参画しました。

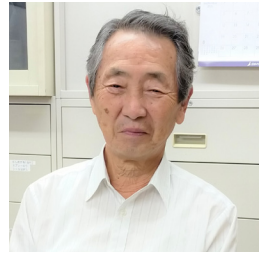
▽コロナ禍でイベントをやる難しさと共に待ってくれていた人達。お盆期間中感染拡大の影響を受け、コロナ禍の今、このイベントをどのように開催できるか平時よりイベントを開催する難しさと対峙することになりました。だからこそ、感染対策を万全にすること

に着手。蓋をあけてみると、近所でのフェスを待ってくれていた人がいるという実感が伴う場面もありました。特に「下馬兵舎時代の思い出絵地図」は、現在も団地に住んでいるご高齢者にとつて、とても楽しみにされている展示のひとつだった様子。この展示をみるために、待ちわびておられた方々と出会えました。

「当時経験したことは、苦しいことも多かったはずなのに、語りたいことが尽きないわねえ。今は本当に豊かになっていい時代。だからね、コロナ禍で大変だったとしても、いざよくなることを伝えたいの」と、お話くださった方もいました。

▽障害当事者が活躍する機会
10代の頃の交通事故で、高次脳機能性障害と共に生きることとなる黒田真史さん。今回、世田谷パブリックシアターの得意分野である演劇の手法を使い、ケアセンターふらっとを利用する黒田さんの人生をインタビューし、共に上演。黒田さんの人生に寄り添いながら、ご自身が語りたい「我が道のり」が形となり、「障害の有無を問わず、自分で考え自分で選ぶ」人生の醍醐味を表現。その演劇を見ながら、黒田さん自身の充実した表情が印象的でした。

▽コロナ禍の今だからこそ
企画者同士のふりかえりでは、連携先団体と共に知恵を持ち寄りあうことで団結力が生まれたという声もあがりました。感染対策を踏まえながら、手探りで実現したことに近づける勇氣。ご近所との繋がりを感ずる時間となりました。



国分寺崖線の自然を残したい
中川 清史さん
ながわ せいし

や せた人が キラリ

世田谷を中心に活躍する
キラリと光る素敵な方がたを
ご紹介します
取材●市川 徹

です。これが先例
になるとまずいと
感じて、反対運動
に積極的に関わる
ようになりまし
た。

自治会にも入っ
て事業者・行政・

活動団体などと付き合うようにな
り、話し合いを続けた結果、事業
者に戸数減・配置変更・緑の増加
などの譲歩を引き出しました。こ
うしたことは、「事業者にとつて

も、住民と定期会議を持てる」「共
有地の緑を住民が管理する」と
いったコスト面の利点があり、結
果としてwin・winの関係を保
築くことができたのです。

この件をきっかけに、中川さん
は継続して、周囲の環境に合わせ
た自然づくり(グリーンインフラ)
の活動に取り組みようになりまし
た。現在は、タイプの異なる3つ
の活動「①成城みつ池を育てる会
(自然保全)、②野川とハケの森の

成城生まれ育ちの中川清史さん
は、80歳を超えた今も地元の国分
寺崖線の自然を保全する活動に精
力的に取り組んでいます。生まれ
た頃の成城はまだ原野が多く残る
地域で、中川さんは子どもの頃か
ら自然とふれあう生活をしていま
したが、会社勤めをされてからは
海外出張や国内転勤で、地元に関
わることはなかったそうです。
転換は61歳の時、地元の先輩か
ら成城で大変な問題が起きている
と呼び出されたのがきっかけでし
た。国分寺崖線の真下、高さ10メー
トルの規制のある場所に、規制を
変更して22メートルのマンション
群ができる計画が持ち上がったの

会(ネットワーク活動)、③崖線
みどりの絆・せたがや(提言活動)」
に関わっています。

活動をする上でのポイントは2
つあると言います。「1つ目は、
無理に束ねようとせず自分たちの
やれる方法で保全活動をすればよ
い。2つ目は、横串を入れること。
みんなで知恵を合算すれば1+1
も3になる。」中川さんは活動す
る中でこの活動タイプの違いに気
づき、今では意図的に使い分け
ているそうです。

成城の国分寺崖線の自然は本当
に豊かだと言います。子どもや孫
のふるさとなってほしい。ただ
それをどうやって引き継いでいく
かが課題とのこと。最近の成城で
は、自然の豊かさを感じ、住民が
自主的に敷地の緑を地域に開く事
例が増えるなどの動きがあり、注
目しているそうです。みなさんも
身近な緑の存在について、誰がど
のように関わっているか、目を向
けてみてはいかがでしょうか。

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

のかかわらないという方は、お電話でご相談ください。
電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。
●問合せ／世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障害や学習障害の傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合つことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生～高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアをお探しして紹介しています。

現在、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの学習支援にも対応しています。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっていきます。お気軽にご相談ください。
●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 原口
TEL 5712・5101
haraguchi@tagaisana.or.jp

ボランティア求む

東 小学生の登下校に付き添ってくれるボランティア募集

等々力にある児童福祉施設が、小学校低学年の子ども（3人）の登下校に付き添ってくれるボランティアを探しています。送迎は施設の職員1名と一緒にいきます。学校のある日は毎日送迎します。●週一回から、朝・夕のどちらかでも構いません。様々な大人と関わることで、子どもたちの成長につながればと考えています。子どもが好きな方、子どもと関わりたい方など、ご応募お待ちしております。

東 切手整理のボランティア募集

「はさみの会」で切手整理と一緒にしませんか？ おしゃべりしながら、使用済みの切手を整理しています。整理した切手は、目の見えない方の施設に寄贈しています。毎週火曜日（第3火曜日を除く）の11時から14時に、ボランティアセンターの会議室で活動しています。気軽にご参加ください。詳細はお問い合わせください。

●日時／月曜日～金曜日の朝、夕、第二土曜日の朝
（朝）7時過ぎ（または7時25分頃）
（夕）8時10分頃まで
（夕）17時過ぎ（または17時25分頃）
～18時10分頃まで
●場所／等々力の施設から徒歩35分程度の小学校まで
●条件／交通費支給、施設にてボランティア保険に加入
●問合せ／玉川ボランティアビューロー
TEL 3707・3528
tanaboe@tagaisana.or.jp

●日時／毎週火曜日11時～14時（第3火曜日を除く）
●場所／世田谷ボランティアセンター
●条件／女性
●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 柳 今関
TEL 5712・5101

東 食事作りをして下さる方募集

昨年7月より駒沢のお寿司屋さん、の居抜き店舗にて地域サロンの活動をしています。手作りのランチ、お弁当作りに協力して頂ける方を募集しております。無償ボランティアさんの募集ですが、ご希望の方には食事を代金半額で提供しております。不定期でも月1回でも可です。お気軽にお声掛けください。

東 配食サービスの調理ボランティア募集

食事作りがお困りの方たちに、手作りのお弁当をお届けしています。地域のボランティアが作る家庭的な食事をお弁当に詰めて、「こんにちは」とお声をかけながら手渡しでお届けするこのサービスは35年続いています。コロナ禍で配食サービスのニーズは増えるものの、作り手のボランティアが足りません。老若男女どなたでも参加できます。食事作りがお好きな方、得意でなくとも地域活動に関心のある方、ぜひお気軽にお問い合わせください。

- 日時／水曜日 10時～12時
- 場所／オアシス（世田谷区駒沢2-21-7）
- 交通／駒沢大学駅徒歩10分
- 問合せ／NPO法人コミュニケーション・ネットワーク・ウェーブ 担当 一宮 070-5457-7781 wave@ngo-npo.org <http://www.ngo-npo.org/wave/>

- 日時／月～金8時半～13時半頃
- 場所／食事サービスサポートセンターだんらん（世田谷区鎌田3-13-1）
- 交通／バス成城学園前駅「二子玉川行」站南中学校前下車1分
- 条件／車いすを押す体力がある方、外出同行した際の交通費は負担します。
- 問合せ／老人給食協力会ふきのとう 担当 佐野 sano@now.jp TEL 3706-2545 <http://fukinotou.now.jp/>

帰国・外国人生徒に対しての支援活動を共にしてくれる仲間を募集

日本に住む外国人小・中学生に対して、日本語がわからなくて学習面や生活面で困っている彼らが置いてきばりにならないような支援活動をしていきたいと考えています。具体的には学校の授業についていけない内容をヒアリングし、その子供たち一人一人に合う補足などをしていきたいと考えています。

私が大学3年生なので、同じくらしいの世代の方、またコロナ禍によって失われたコミュニケーション

- 問合せ／帰国・外国人支援団体「アイ」 担当 古座野 090-3811-7823 kozahiro2@gmail.com

有償スタッフ募集

ホームページ管理スタッフ募集

「人を貸し出す図書館」東京ヒューマンライブラリー協会ではホームページを管理してくれるスタッフを募集しています。当協会のホームページは開設されていますが、管理スタッフがいません。毎月1回程度、新しいニュースやイベント情報を更新してくれる有償ボランティアスタッフを募集します。

- 日時／11月～2022年3月迄
- 条件／要事前面談。作業はオンラインで可。希望者は以下のメールにご連絡下さい。謝礼額は要相談。
- 問合せ／東京ヒューマンライブラリー協会 担当 坪井 090-4751-6942 tsubo192@gmail.com <http://www.tokyo-humanlibray.com/>

有償スタツフ募集

赤ちゃんのいるご家庭を訪問し、
育児・家事支援をしてくださる方募集

世田谷区内において、赤ちゃんのいるご家庭（出産後1年未満）を訪問し、お母さんと一緒に赤ちゃんのお世話や家事のお手伝い、外出の付き添いなどを行ってくださる方を探しています。

体調不良や育児への不安など、産後の大変な時期に力を貸してくださる方がいることは、ご家族と赤ちゃんにとって大きな支えになります。日時や内容はご家庭によって異なるため、詳しくはお気軽にお問い合わせください。

●日時／月々土曜日、9時～17時

●問合せ／NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会
担当 波多野
TEL 5727・2133
<http://www.jcsw.jp/>

講座・その他・募集

小 もっと語ろう不登校 part 261

これまで28年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／11月6日（土） 14時～
●場所／NPOフリースクール僕

●ZOOM会議にて
●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分
●条件／事前申し込み
●問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋
090・39005・8124
fshtoru@yahoo.co.jp

小 梅丘ビューロー秋バザー開催&ボランティア募集

「梅丘ビューロー秋バザー」を開催します。収益は地域のボランティア活動推進などに役立させて頂きます。お買い物で、地域のボランティア活動を支えるお手伝いをよろしく願います。衣類、着物、アクセサリ、雑貨、タオル、ハンカチなど。掘り出し物もたくさんあります。皆さまのご来場をお待ちしています。

※事前予約制。入場前には検温手指消毒をし、マスク着用で、密集の防止にご協力ください。

●事前予約受付日／11月5日（土）10時半から電話のみで受け付け

（1回の申込につき2名まで）

●バザー開催日時／

11月12日（金）、13日（土）

10時半～15時15分

（アプロック①②）

買物時間30分間、定員10名

買物時間区分	時間	人数
①	10:30～11:00	11:00
②	11:05～11:35	11:35
③	11:40～12:10	12:10
④	13:00～13:30	13:30
⑤	13:35～14:05	14:05
⑥	14:10～14:40	14:40
⑦	14:45～15:15	15:15
	30分入替制	10名
	定員各回	10名



●バザーボランティア募集／
（A）当日の販売・会場対応
（B）準備・片づけ（10月18日、11月15日、日・祝日以外のご都合のよい日）
（C）会場設営（11月8日～11日のご都合のよい日）
※詳細はお問い合わせください。
●場所／梅丘ボランティアビューロー
●交通／梅ヶ丘駅徒歩5分
●問合せ／梅丘ボランティアビューロー
TEL 3420・2520
uneborara@otagaisama.or.jp
※感染状況により中止・変更となる場合があります。

小 代田ビューロー近所カフェ 〜折り紙でクリスマス飾りを作りましょう〜

サンタさんや手袋、星などを折り、みんなでリース飾りを作りましょう。指先を動かし、脳を活性化。作った飾りは、持ち帰ってもよし、ビューローに飾るもよし、近所の福祉施設にお届けするのもいいと思います。お気軽に、ご参加ください。

※事前申し込み制。新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催
●日時／11月20日（土）13時〜16時
●場所／代田ボランティアビュー

小 大人の発達障がいのある方とかがわる ボランティア養成講座（全3回）

発達障がいのある方が、家にいながら交流ができる「オンラインカフェ」の企画・運営にかかわるボランティアをめざす講座です。講座では、発達障がいのとらえ方を学び、考えるほか、オンライン初心者でも活動ができるように、オンラインについても丁寧にお教えします！

●日時／①11月19日、②11月26日、③12月3日（金）13時半〜16時
●場所／①③は玉川ボランティアビューロー、②オンライン開催（ZOOMを使用）

ロー 1階

●交通／世田谷代田駅西口すぐ
●参加費／100円（お茶代）
●申込み／お電話かメールで、メールの場合は件名に、「11/20「近所カフェ参加希望」とし、本文にお名前と電話番号を明記して下さい。

●問合せ／代田ボランティアビューロー
TEL 3419・4545
otabor@otagaisama.or.jp

●交通／三子玉川駅徒歩5分
●参加費／500円（資料代）
●定員／12人（10月15日受付開始）
●申込み／電話、FAX、メールでお申し込みください。件名を「発達講座申込み」とし、①氏名②住所③連絡先④年齢（年代）を明記
●問合せ／玉川ボランティアビューロー
TEL 3707・3528
FAX 3708・3058
tamabor@otagaisama.or.jp

せたがやチャイルドライン寄付・ご支援のお願い 子どもをささえる活動をささえてください

①寄付・ご支援のお願い

せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どものための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。通常はバザーや手づくり品の販売などで活動資金の一部を調達していますが、イベントの中止などにより、活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動をささえるために、寄付のご協力をお願いいたします。

●郵便振替口座にお願いします。
●口座番号／00150・8・279963
●加入者名／社会福祉法人世田谷ボランティア協会
※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象にはなりません。通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

②講義集の販売

受け手講座の内容をまとめた講義集「子どもに育ててもらったおとなたち」をメールでご注文いただけます。この講義集は受け手養成講座のテキストでもあり、せたがやチャイルドラインが大切にしている「子どもへのまなざし」がぎゅっと一冊にまとめられています。受け手講座に関心のある方や、子どもとのかかわりに悩む大人の方にもぜひ読んでいただきたい内容となっています。

●価格／1冊1000円（税込）。お支払いは後日お振込みとなります。（別途送料）
●注文方法／郵送ご希望の方は、「お名前・送付先ご住所・電話番号・冊数」をご記入のうえ、メールでお申し込みください。
●問合せ／せたがやチャイルドライン
TEL 5712・5101
childline@otagaisama.or.jp

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすところ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った!」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ!

◆センター&ビューローより

11/19から「大人の発達障がいのある方とかかわるボランティア養成講座」がスタート。2回目はオンラインでやりますが、オンラインが苦手な方はご相談にのります。詳細はP.11をご覧ください。

◆ふらっと& withより

11月は、小春日和。年内最後の心地よい風と陽を浴びに、散歩をコロナの隙を狙って果敢に出ます。ボランティアのみな様と一緒にでかけませんか?

◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

◆チャイルドラインより

肌に感じる風も冷たくなる季節となりました。チャイルドラインでは、11月にチャットキャンペーンを実施し、チャットでも子どもたちの声を受けとめる活動を広げていきます!

編集後記

■GIGA 世代の子どもたちはデジタルを上手に使い、大人になる。そう思うと、私も同時にデジタルの勉強をする必要があると感じます。

■10月7日(木)の深夜に、東京と埼玉で、震度5強の地震、びっくりしましたね。改めて自分の家を確認し、倒れやすいデスクトップのパソコンや大事なデータが入ってるハードディスク、テレビの耐震対策が出来ていないことに気が付きました。早速、耐震マットを買いました。(こ)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

